

私立大学図書館協会東地区研究部会  
2010年度研修会

# 大学図書館とインキュナブラ

雪嶋 宏一

2010/11/05

# インキュナブラ incunabula とは

- グーテンベルクから1500年末までにヨーロッパで活版印刷された書物、パンフレット、一枚刷り、広告などの印刷物を総称する書誌学上の用語
- incunabula: 17世紀になって使用されたラテン語で「揺籃の中にあるもの、出生地、物事の始め」を意味し、cunae, cunabula「揺籃、むつき」から派生

インキュナビュラ、インクナブラ、インキュナブラ、揺籃期本

# グーテンベルクの発明

- 1455年までにラテン語ウルガタ訳聖書を印刷
- 技術的達成については不明な点が多い
- 活字製作技術、平圧式印刷機、組版技術、金属活字になじむインクなど多岐に渡ると推測される
- グーテンベルク聖書(『42行聖書』)の印刷物としての完成度の高さは印刷技術者の賞賛の的

# 印刷術の伝播

ドイツ、マインツ 1455年

- 1459 シュトラスブルク
- 1460 バンベルク
- 1465 ケルン
- 1465 イタリア、スビアコ
- 1468 スイス、バーゼル
- 1470 フランス、パリ
- 1473 低地地方、ユトレヒト; スペイン、バレンシア;  
ハンガリー、ブダ
- 1475 ポーランド、クラクフ
- 1476 イングランド、ウェストミンスター; チェコ、ピルゼン
- 1482 オーストリア、ウィーン; デンマーク、オーデンセ
- 1483 スウェーデン、ストックホルム

- 15世紀中にヨーロッパの300都市以上に伝播
- 1100～1200の印刷所が設立
- 印刷物は約4万版と推定され、3万版近くが現存
- 印刷の中心地
  - ヴェネツィア 約4000版
  - パリ 約3500版
  - ローマ 約2000版
  - ケルン、リヨン 約1500版

# 15世紀の印刷所

- ゲーテンベルクは『42行聖書』を印刷するのに最盛期に6台の印刷機を同時に使用した
- 1台の印刷機を稼働させるためには少なくとも植字工、プレス工、インク工の3人のチームで作業
- 『42行聖書』に使用された活字(B42)は大文字、小文字、縮約形、数字、句読点など全部で約300種類
- 聖書を印刷するためには少なくとも46,800本以上の活字が必要
- 最初の活版印刷所はすでに工場制手工業の場、新たな産業の誕生

# どのような書物が多数印刷されたか

言語別	自国語の使用率
ラテン語 約77%	イングランド 58%
イタリア語 7%	スペイン 54%
ドイツ語 5~6%	フランス語圏 35%
フランス語 4~5%	低地地方 27%
フランマン語 1%	ドイツ語圏 24%
	イタリア 21%

分野別		宗教書の内訳	
宗教書	45%	聖務日課	439版
文学書	30%強	時祷書	424版
法律書	10%強	免罪符	369版
科学書	10%	聖書	204版
		神学者 アウグスティヌス	350版
		ボナヴェントウラ	219版
		トマス・アケイナス	218版

# 著者別

古代ギリシア・ローマ	中世
ドナートゥス 429版	アレクサンドル・ド・ヴィルデュ 410版
キケロ 364版	アルベルトゥス・マグヌス 215版
ウェルギリウス 185版	ジャン・ジェルソン 172版
アリストテレス 182版	人文主義
オウィディウス 173版	ペトラルカ 92版
	ボッカチョ 81版
	ダンテ 33版

# インキュナブラの特徴

- 中世写本の伝統と16世紀以降の印刷本との橋渡しをする中間的な特徴を持つ
- 標題紙がほとんどない
- 著者・書名などの情報は巻頭のincipitに続く文章に記述されることが多い
- 巻末コロフォンに著者、書名、編者、印刷事項などが記述されることが多い
- コロフォンがないものも多く、印刷事項が不明なものも多数
- 印刷事項不明な本の印刷所・年の特定には活字の特徴が有力な根拠となる
- 同版でも様々な差異が見られる
- 一つとして同じ状態のコピーは存在しない

# インキュナブラの所蔵

国立・公立図書館 版数 コピー数	大学図書館 版数 コピー数
バイエルン州立図書館 9742版 約20000コピー	オックスフォード大学ボドリアン図書館 約5700版 約6700コピー
英国図書館 10390版 約12500コピー	ケンブリッジ大学図書館 4351版 4650コピー
フランス国立図書館 約8000版	ハーヴァード大学図書館 4057版
ヴァチカン教皇庁図書館 5205版 7926コピー	マンチェスター大学ライランズ図書館 約2670版
米国議会図書館 4704版	アウクスブルク大学図書館 約2640版

# 日本に所在するインキュナブラ

## 明治時代 2コピー

- 明治24年に亀井茲明がドイツから持ち帰ったシェーデル『ニュルンベルク年代記』(ラテン語版、ニュルンベルク:コーベルガー、1493年)(東京大学総合図書館蔵亀井コレクション)
- ニコラウス・デ・リラ『聖書注解』第2巻(ニュルンベルク:コーベルガー、1481年)は明治9年創立の東京三一神学校の旧蔵書、神学校は明治44年に立教大学に統合

# 大正時代・昭和前期 24コピー

図書館・コレクション	著者・書名	印刷地・印刷年
帝国図書館	アリストテレス『命題集』	ライプツィヒ、1494
東北大学図書館	エウクリデス『幾何学原論』	ヴェネツィア、1482
南葵音楽文庫 カミングス・コレクション	ウティノ『黄金の四旬節』 『聖人の調べ』	ヴェネツィア、1471 シュトラスブルク、1500
東洋文庫 モリソン・コレクション	マンデヴィル『旅行記』3点 ポーロ『東方見聞録』2点	ゴータ、1483/84 他 ゴータ、1483/84 他
東京商科大学 メンガー文庫	アエギディウス『皇帝の支配 について』その他4点	アウクスブルク、1473 他
倉敷労働科学研究所 ゲッティンゲン医学文庫	ラーゼス『医学論』	ヴェネツィア、1497
細川護立 コルディエ文庫	シェーデル『ニュルンベルク 年代記』ラテン語版 2部	ニュルンベルク、1493

# 戦後の全国調査

第1回 天野敬太郎 「日本に於けるインキュナビュラ  
総合目録」1952

6図書館 22コピー＋2零葉

第2回 富永牧太「インキュナビュラの本邦所在目録」  
1964－66

11図書館＋個人蔵 69版71コピー

第3回 雪嶋宏一『本邦所在インキュナブラ総合目録』  
1995

44機関・個人 297版348コピー

第3回増補 雪嶋宏一 *Incunabula in Japanese Libraries*,  
2004

62機関・個人 383版466コピー

# 第3回増補の結果

図書館	コピー数(その後の追加)
天理大学附属天理図書館	56
明星大学図書館	56(+1)
慶応義塾図書館	51(+8)
近畿大学中央図書館	27
大阪青山短期大学図書館	27
広島経済大学図書館	26(+7)
一橋大学社会科学西洋古典資料センター	21
早稲田大学図書館	18
金沢工業大学ライブラリーセンター	17
京都外国語大学	16

# わが国の大学図書館が インキュナブラを収集する意義

- 書誌学的な研究目的
- 貴重書コレクションの充実
- 慶応義塾図書館は科学史古典収集に由来
- 金沢工業大学図書館は工学史古典の収集  
「工学の曙」ライブラリー
- 広島経済大学図書館は『西洋を築いた名著』を手本に名著古典を収集 「知の系譜」文庫
- 教育目的 メディア発展の実物資料として
- 特定名著の収集 パチョーリ『スムマ』

# 大学図書館員の役割

- 大学図書館が所蔵する西洋古版本が日本を代表する洋書貴重書のコレクション
- 大学図書館員は西洋古版本を日本の宝物としてもっと関心を寄せるべき
- 大学図書館員相互の連携協力(貴重書に関する情報交換)
- 大学図書館のホームページに所蔵する西洋古版本のリスト掲載(South Methodist University, Bridwell Libraryでは所蔵するインキュナブラをリストアップ)
- 各図書館が所蔵する洋書貴重書を書誌学的に調査してデジタル公開(慶応義塾図書館、バイエルン州立図書館などではインキュナブラのデジタル画像を公開)

# 参考文献

- Bland, Mark. *A guide to early printed books and manuscripts*. Wiley-Blackwell, 2010.
- *A companion to the history of the book*, ed. by Simon Eliot and Jonathan Rose. Wiley-Blackwell, 2009.
- *The Oxford companion to the book*, ed. by Michael F. Suarez, S. J. Woudhuysen and H. R. Woudhuysen. Oxford University Press, 2010.
- Yukishima, Koichi. *Incunabula in Japanese libraries (IJL2)*. Yushodo Press, 2004.